

# 橿原考古学研究所附属博物館 秋季特別展「美酒発掘」開催結果報告

## 1. 開催趣旨

大神神社や正暦寺が所在する奈良県は、文献史料上にも古い「酒」の記録があり、現代の酒造方法の礎が考案された清酒発祥の地とされている。

この展覧会では魏志倭人伝の時代から明治時代までの日本酒の歴史を、遺跡出土の考古資料を中心として展示。

また、近世・近代の民俗資料、酒造元で愛用された酒造道具、近年の酒関連製品も紹介し、奈良県酒造組合の協力を得て奈良県内の日本酒の酒造元も紹介することで、来館者に日本酒文化を再発見して頂くことをねらいとして開催した。

◇主催 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・文化庁

◇会期 2013年10月5日(土)～11月24日(日) (開館日数：44日間)

◇特別協力 東京国立博物館・奈良県酒造組合・正暦寺・株式会社瀧川寺社建築

◇後援 読売新聞大阪本社

◇展示構成と主な展示品

序章1：奈良の酒文化、序章2：世界の伝統酒、

第1章：日本最古の酒と日本酒原料の登場

第2章：古墳時代の祭祀・酒造と甗・カマドの登場

第3章：朝廷の酒、第4章：中世から現代へ

◇展示品総数750点

国指定重要文化財：京都国立博物館所蔵青磁水注、群馬県立歴史博物館所蔵：山王廃寺出土緑釉陶器・銅碗・土師器・金属製品、東京国立博物館所蔵白磁鳳首瓶 他当博物館所蔵品 他

県指定文化財：石上神宮所蔵巖甕、群馬県立歴史博物館所蔵剣崎天神山古墳出土石製模造品、その他奈良県内外の研究機関所蔵品を借用展示

◇入館者総数7,601名

## 2. 研究講座

10月6日(日)：「奈良町遺跡と酒造り」(奈良市教育委員会 中島和彦氏)

「発掘されたお供え・葉・嗜好の酒」(当博物館 廣岡孝信) 聴講者102名

11月10日(日)：「奈良県三輪山祭祀遺跡群と古墳時代の神マツリ」(東京国立博物館 古谷毅氏)

「古代人と酒」、当研究所 鶴見泰寿 聴講者144名

## 3. フォーラム

10月20日(日)：「美酒芳香～神事に香る奈良の酒～」 聴講者148名

講師：石上神宮 森好央氏、大神神社 山田浩之氏、春日大社 中野和正氏、奈良豊澤酒造株式会社 豊澤孝彦氏、奈良県立民俗博物館 鹿谷勲、奈良県産業振興総合センター 清水浩美

## 4. 名古屋講演会(会場：名古屋大学)

11月9日(土)：「お酒の起源」(当博物館 西藤清秀)

「日本酒醸造の起源と広がりを探る」(橿考研 青柳泰介) 聴講者120名

## 5. 展示解説

10月6日(日)：聴講38名、11月10日(日)：聴講36名

## 6. 連携イベント

秋季特別展「美酒発掘」ブリーフガイド：10月13日(日)～20日(日) 来館170名

秋季特別展「美酒発掘」の見どころセミナー：10月13日(日) 聴講者54名

(上記会場：奈良まほろば館)

「拝観 菩提山正暦寺～清酒発祥の地～」 10月14日(月)：聴講者19名

「美酒発掘 ～見どころ解説と酒蔵見学～」 11月9日(土)：聴講者75名

11月16日(土)：聴講者53名

11月23日(土)：聴講者43名

# 特別陳列「東海地方からの新しい風」

～古墳出現期の東海系遺物～

## 開 催 要 項

古墳出現期において日本列島各地の土器が出土する纏向遺跡は、新たな時代の幕開けを象徴する遺跡です。奈良県立橿原考古学研究所附属博物館では、古墳出現期の纏向遺跡の発掘調査成果を常設展示しており、当館の見どころの一つにもなっています。

さて、纏向遺跡から最も多く出土している他地域の土器は東海地方の土器であることが知られてきましたが、これまであまり注目される機会はありませんでした。そこで、本展覧会では最新の研究成果に基づき、奈良県内で非常に多く出土する東海地方の土器や両地域に分布する資料から明らかになった古墳出現期の交流について紹介します。

会 期 : 2014年2月1日(土)～3月16日(日)  
休館日 月曜日

開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会 場 : 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 特別展示室  
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町50-2  
TEL 0744-24-1185 Fax 0744-24-1355

主 催 : 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

後 援 : 公益財団法人 由良大和古代文化研究協会

研究講座: 2014年3月16日(日) 午後1時開始(聴講無料・申し込み不要)  
奈良県立橿原考古学研究所講堂  
川崎志乃(当博物館)「ヤマトの東海系土器」  
坂 靖 (当博物館)「ヤマト王権と東海地方」

列品解説: 2014年2月8日(土) 午前10時30分集合(聴講無料・申し込み不要※入館料が必要)  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館特別展示室

入館料 : 通常の観覧料金。  
大人400円(350円)、大学・高校生300円(250円)、小・中学生200円(150円)、( )  
内は20名以上の団体料金。ただし小学生未満、土曜日の小・中・高・特別支援学校生  
は無料。65歳以上、外国人観光客と付き添いのボランティアガイド、身体障がい者手  
帳・療養手帳・精神障がい者保険福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名(それぞ  
れ証明するものをご提示下さい)

担 当 : 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館  
嘱託 川崎志乃・総括学芸員 坂 靖

記紀万葉プロジェクト関連事業—ゆかりの地連携  
特別陳列

# 高く大きい「出雲大社」展

## 開催要項

本県でとりくんでいる記紀万葉プロジェクト関連事業のうち、「ゆかりの地」との連携として、今回の特別陳列を開催する。『古事記』は歴史書として編まれたが、古代の神話・伝説・歌謡を含み、日本文化の源流を知る貴重な書物となっている。なかでも出雲地域に題材をとる出雲神話は、大きな比重を占めている。『日本書紀』には国譲り神話にオオクニヌシを祭る「天日隅宮」として出雲大社が登場する。

出雲大社境内遺跡からは、発掘調査により鎌倉時代とみられる「宇豆柱」（うづばしら）が出土し、高く大きい出雲大社本殿の姿が明らかとなった。また、古墳時代に遡る祭祀遺物や遷宮に関わる手斧の出土など、長い信仰に裏付けられた祭祀の継続を示す考古資料の存在もわかってきた。

「平成の遷宮」にあたったこの機会に、本展覧会を通じて『古事記』・『日本書紀』にゆかりの深い出雲大社の歴史や「いま」を学ぶこととしたい。

### 1. 会期

2014年2月8日（土）～3月23日（日） 会期 37日間  
午前9時～午後5時まで（ただし、入館は午後4時30分まで）

### 2. 主催

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

### 3. 会場

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 特別展示室  
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町 50-2  
TEL (0744) 24-1185 FAX (0744) 24-1355

### 4. 観覧料金

無料スペースとして利用（ただし、常設展は有料）

### 5. 主な展示品

勾玉・白玉（レプリカ・出雲大社境内遺跡出土 原品は出雲大社）  
手斧（レプリカ・出雲大社境内遺跡出土 原品は出雲大社・重要文化財）  
勝男木（出雲大社）  
出雲大社境内遺跡模型（島根県立古代出雲歴史博物館）  
古代出雲大社本殿復元模型（島根県立古代出雲歴史博物館）など

### 6. 研究講座

3月8日（土）研究所講堂午後1時～4時30分  
千家和比古（出雲大社権宮司）「出雲大社遷宮の歴史」  
松本岩雄（島根県教育庁文化財専門官）「発掘された出雲大社本殿遺構」

### 7. 展示担当

学芸課長今尾文昭・主任学芸員重見泰・主任学芸員北井利幸